

## 東芝の映像・イメージング技術を支える基盤研究

Toshiba's Basic Research Supporting Visual and Imaging Technologies

## 巻頭言

## 映像・イメージング基盤技術の重要性

Importance of Advanced Visual and Imaging Platform Technologies

2012年は、厳しい経済情勢のなかでも、特に映像技術に関連した事業の熾烈(しれつ)さと変化の激しさが強く印象づけられた一年でした。私が社会人になった30年以上前には、テレビ(TV)もビデオカセットレコーダ(VCR)も当時の給料と比較してかなり高額の商品でした。今は多くのAV・IT(情報技術)機器が生まれましたが、made in Japanではなくなり、価格も安価になりました。ここに至るまで多くの研究者や技術者が既存の技術を乗り越える研究と商品化を行い、たゆまぬコスト低減を行ってきた結果、誰もがいつでもどこでもその恩恵を受けられるようになりました。

子どもの運動会やピアノの発表会などイベントに付き物の撮影だけではなく、携帯電話やスマートフォン、デジタルカメラで日常的に写真や動画を撮影し、メモ리카ードやクラウドシステム上に保存、共有するライフスタイルを楽しんでいます。TV放送もデジタル化され、TV受像機は薄型で大画面化し、きれいな画質になりました。VCRの発明から始まった録画文化及びレンタル文化が、テープ媒体からHDD(ハードディスクドライブ)やディスク媒体に、更には放送も含めてインターネット経由のサービスへと変化したように、映像を含む技術の変化はライフスタイルを変える一因でした。

東芝はVCR技術開発や、DVDの規格化、SDメモ리카ード、MPEG-2(Moving Picture Experts Group-phase 2)をはじめとする高能率符号化国際標準や、レグザブランドのTV受像機やHDDレコーダ、ガラスレス3D TV(3D:立体視)の技術開発と製品化、更には、映像をよりリアルに感じるための高精細化(超解像)技術の実用化など、この進歩に大きく寄与してきました。

最近のユーザーの皆さまは、購入時の喜びや、使用する満足感、使い勝手の良さなど純粹の新技术だけではなく価値観を重要視しており、当社もそのための研究を行っています。しかし、基盤技術が重要であることは変わりません。映像・イメージング技術はデジタルプロダクトだけでなく、映像配信サービスや交通、セキュリティなど社会インフラの広範囲の箇所でも適用され、日々活躍しています。

この特集では、映像入力系技術、高能率符号化技術、表示技術と、社会インフラ分野への適用例として映像配信技術を紹介します。当社の先進映像・イメージング技術に関する基盤研究の現状をご理解いただければ幸いです。



下田 乾二  
SHIMODA Kenji